

漱石山房記念館 《通常展》 テーマ展示

ああ漱石山房



漱石山房外観(大正5年12月) 松岡譲編『漱石写真帖』

令和4年12月1日 [THU] ~ 令和5年4月9日 [SUN]

会場：新宿区立漱石山房記念館 2階資料展示室

会期：令和4年12月1日(木)～令和5年4月9日(日)

休館日：毎週月曜日(休日にあたるときはその翌平日)／年末年始(12月29日～1月3日)

開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

観覧料：一般300円、小中学生100円、団体(20名以上・要事前連絡)は個人の観覧料の半額

※障がい者手帳等をお持ちの方は手帳の提示で無料(介助者1名無料)

※小中学生は土日祝日・冬季休業日・春季休業日は無料

主催：新宿区立漱石山房記念館(公益財団法人新宿未来創造財団)

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7 TEL.03-3205-0209 FAX.03-3205-0211

<https://soseki-museum.jp/>





松岡譲

漱石山房記念館 《通常展》 テーマ展示 「ああ漱石山房」

「ああ漱石山房」。この印象的なフレーズは、漱石山房に門下生として出入りし、夏目漱石の長女・筆子と結婚した松岡譲(1891-1969)がその晩年、エッセイ等によく使用したものです。漱石没後満50年を迎えた昭和41(1966)年、『サンケイ新聞』12月8日の夕刊に、「ああ、漱石山房」という

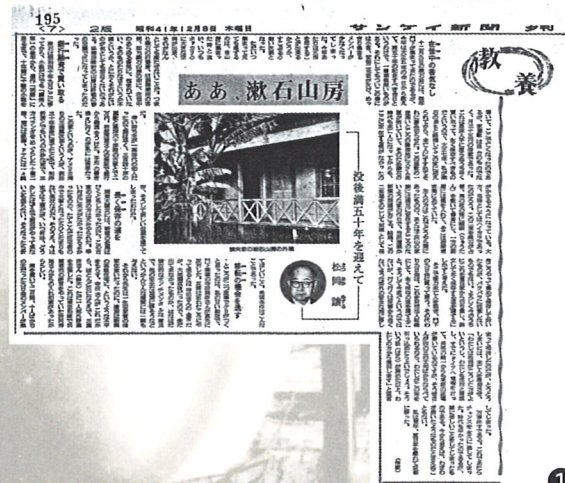
署名記事が載り、翌年5月、朝日新聞社から『ああ漱石山房』というエッセイ集が出版されました。

漱石山房は、夏目漱石が明治40(1907)年9月から亡くなるまでの9年間生活した牛込区(現在の新宿区)早稲田南町7の借家にあったそれぞれ10畳の書齋と客間を指します。毎週木曜日の午後、門下生たちがここに集い、漱石と夜遅

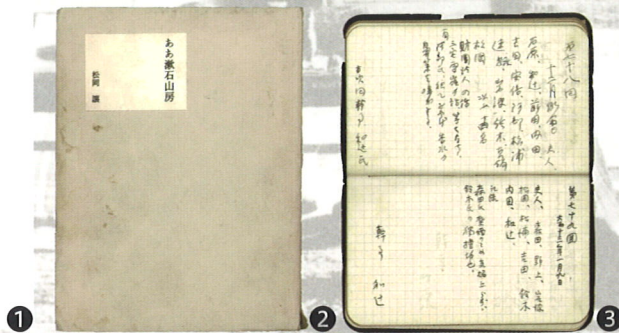
くまで様々な世間話や活発な文学談義に花を咲かせました。漱石山房は、門下生たちにとって特別な思い出のある場所でした。

幸い大きな被害は出なかったものの、大正12(1923)年の関東大震災を契機に、漱石山房の保存問題に取り組む機運が高まりました。また、とりわけ、夏目家に同居していた松岡譲は、夏目家を代表する立場として、漱石山房の保存に奔走しましたが適わず、残念ながら昭和20(1945)年5月の山の手空襲により、漱石山房は焼失してしまいます。松岡譲の努力が実を結ぶことはありませんでしたが、平成29(2017)年9月、新宿区立漱石山房記念館が開館し、門下生たちの漱石山房に対する思いを様々な形で表現しています。

本展示会では、漱石最晩年の門下生の一人で、没後夏目家の一員となった松岡譲の漱石山房への思いを見ていきたいと思ひます。



- ①松岡譲「ああ、漱石山房」『サンケイ新聞』夕刊 昭和41(1966)年12月8日
- ②松岡譲『ああ漱石山房』朝日新聞社、昭和42(1967)年
- ③『九日会手帳』大正12(1923)年12月9日・13年1月9日 松岡・半藤家資料
- ④松岡譲 漱石山房画賛軸「漱石山房図」 昭和18(1943)年5月



関連イベント

無料 ギャラリートーク

日時：令和4年12月18日(日)、令和5年1月22日(日)、2月19日(日)、3月19日(日)
午後2時～2時20分

場所：地下1階講座室

交通のご案内

電車：東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分
都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分

バス：都営バス(白61)「牛込保健センター前」より徒歩2分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

※新型コロナウイルスの感染状況により、イベント内容に変更が生じる場合があります。最新の情報は、当館のウェブサイトにてご確認ください。



新宿区立漱石山房記念館(公益財団法人新宿未来創造財団)

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7 TEL.03-3205-0209 FAX.03-3205-0211 <https://soseki-museum.jp/>